

情報通信審議会 情報通信技術分科会  
新世代モバイル通信システム委員会 ローカル5G検討作業班（第21回）

1 日時

令和6年3月27日（水）14:00～15:00

2 場所

Web会議による開催

3 出席者（敬称略）

（1）構成員

三瓶 政一（主任）、山尾 泰（主任代理）、青山 明雄、飯岡 俊範、  
市川 泰史、岩本 裕真、太田 龍治、大橋 功、大村 好則、  
大屋 靖男、小竹 信幸、鴨井 好正、木村 亮太、河野 宇博、  
佐野 弘和、白石 成人、外山 隆行、武田 一樹、  
玉木 剛（代理 米子 房伸）、中村 光則、生田目 瑛子、  
西島 英記、野崎 健、細川 貴史、本多 美雄、松波 聖文、  
松村 武、渡邊 泰治（代理 加藤 雅人）

（2）関係者

古川 憲志（ドコモ・テクノロジー）

（3）総務省（事務局）

入江 晃史（移動通信課 移動通信企画官）、  
平野 裕基（移動通信課 課長補佐）、高木 世紀（移動通信課 係長）、  
森下 亮司（移動通信課 係員）

4 議題

（1）第20回ローカル5G検討作業班における指摘事項について

事務局から資料21-1に基づき、第20回ローカル5G検討作業班における  
指摘事項のとりまとめと海上利用のユースケースについてヒアリングを  
行った結果について説明があった。

説明の内容について特段の質疑はなかった。

次にドコモ・テクノロジー株式会社の古川氏から、資料21-2に基づき、第

20 回ローカル 5 G 検討作業班で報告したローカル 5 G の海上利用に関する  
共用検討資料について、修正内容についての説明があった。

佐野構成員：資料 P33 のまとめにおいて、隣接帯域については非同期運用でも  
問題ないとあるが、同期運用についても問題無いということか。

古川氏：ご認識のとおり。

佐野構成員：隣接帯域については全国 5 G も含め、これまでと同様に同期運用は  
非同期運用よりも優先されるという考え方は変わらないと考えて良いか。

また、準同期運用は、同期運用と非同期運用のどちらの分類になるのか。

事務局：ローカル 5 G の海上利用においても、従前の陸上での考え方とおおり、  
隣接帯域の全国 5 G との共用においても同期運用が非同期運用より優先さ  
れるという考え方が適用されるものと考えられる。また、電波法関係審査基  
準上、準同期運用は非同期運用のうちの一つとして分類されている。

三瓶主任：P16 に「マクロ基地局の電力以下」という記載があるが、この記載が  
意味するところは何か。

古川氏：分かりにくい記載で失礼した。中継局の送信電力がマクロ基地局の送信  
電力以下であるという意味である。

三瓶主任：他にも同様に中途半端な記載となっていて分かりにくい記載がある。  
意味するところを正確に記載するように修正すべき。

古川氏：承知した。

山尾主任代理：前々回の作業班で、一定の条件下において自己土地内において空  
中線に移設する手続を簡素化する旨の検討を行ったと思うが、海上におい  
ても同様な整理となるのか。自己土地の概念が海上にはないのではないかと  
思われるため確認したい。

事務局：過去の作業班の資料においてもお示ししているとおおり、基本的に、海上  
のほとんどは他者土地の扱いとした上で、法令等に基づいて一定の所有権  
が認められる場合には自己土地として認められうるとの考え方が示されて  
いたかと思う。海上における一定の所有権について、どこまで確認できるか  
にも依るが、ご指摘の点は、海上において自己土地として認められる条件  
下においては、同様に適応することが可能となると考えられる。

続いて中村構成員から資料 21-3 に基づき、第 20 回ローカル 5 G 検討作業  
班で報告のあったミリ波における熱効率の高い構造物の壁損の値に関する提  
案について、内容を補足する説明があった。

武田構成員：遮蔽効果が高い壁損失が見込まれる建物の中で利用している場合

に、従来のとおり” traditional” の値で計算した場合に、実態に比べて干渉調整区域をどの程度広げてしまい、他のローカル 5 G の利用を妨げる結果になるのか。

中村構成員：手元に定量的な数値がなく、この場でお示しできない。過去の結果を踏まえた感性的な回答になってしまうが、資料中で説明した技術実証の環境のように、同じ建物の中で階層が異なる場所で違う事業者がローカル 5 G を使える場合や、同じフロアでも壁越しにそれぞれ違うローカル 5 G システムを使いたいという場合もあるかと思う。壁の損失については実際にどの程度かということもあるが、標準的な壁の損失と今回追加する” Thermally-efficient” の壁の損失の値では 2 倍近く違うことから、熱効率の高い構造物の壁損の値を選択できるようになると、この効果は大きい。より密に置局できるということから、ローカル 5 G の普及が進む過程において、効果が徐々に出てくると思う。

武田構成員：コメントになるが、現行の壁損失の規定値では、お互いのローカル 5 G システムが共存できないような根拠となるデータがあればと思い質問させていただいた。

中村構成員：ご指摘のとおりかと思う。

## (2) 委員会報告書案骨子について

事務局から資料 21-4 に基づき、委員会報告書案の骨子について、説明があった。

三瓶主任：骨子の内容のうち、「検討概要」という記載について、概要とは内容の要点を絞り込んだものであるという認識である。報告書に記載する内容は概要ではなく、内容になることから「検討内容」が正確なのではないか。報告書は議論の内容の唯一のアウトプットとなるので、概要ではないと考える。

事務局：これまでの報告書の様式に合わせた記載としていたが、ご指摘を踏まえて書きぶりについて検討したい。

## (5) その他の連絡

事務局より、次回の作業班では報告書のとりまとめを予定しており、4 月 11 日の開催を予定しているが、日程等の詳細については別途連絡する旨の案内があった。